

# わが

## 「教育・観光・環境が豊かな文化都市」を目指して

### はじめに

男鹿市は、秋田県臨海部のほぼ中央、日本海に突き出た男鹿半島に位置しております。

奇岩怪石の美しい海岸線や緑の山々など変化に富んだ美しい自然景観に恵まれ、昭和48年に国定公園の指定を受けました。

また、昭和53年に重要無形民俗文化財として国の指定を受けた「男鹿のナマハゲ」をはじめとする固有の伝統行事や貴重な文化財があります。

市の中心部には重要港湾船川港があり、後背地には国内最大級の合板工場である「秋田プライウッド株式会社」や「秋田国家石油備蓄基地」が立地しております。北西の季節風の影響を受けない船川港の特徴を生かし、利用拡大に努めているところ です。

船川港は、平成23年の築港100周年を契機とした客船誘致などの記念事業を通じ、「みなとの元氣」を高めた港湾として、(社)日本港湾協会より「ポート・オブ・ザ・イヤー2011」に選ばれました。

### 海フェスタおが

本市は三方が海に開かれた都市です。本年度、海の日全国の祭典

「海フェスタおが」の祭典2013 in秋田」を開催いたしました。「海フェスタおが」の標語は、「北緯40度に『かじ』を取れ!」といたしました。男鹿半島の位置する北緯40度線上には岩手県の三陸があります。海フェスタに多くの皆さまにご来場いただき、併せて、東日本震災の被災地にも目を向け、1日も早い復興を、という思いを込めて取り組みました。

### ジオパーク

本市は、隣接する大潟村とともに

に、平成23年に日本ジオパーク委員会より「男鹿半島・大潟ジオパーク」として認定されました。男鹿半島・大潟地域は、グリーンタフ(緑色凝灰岩)をはじめとした日本海沿岸地帯の地層の標準となっており、男鹿半島・日本海の形成を含む、7000万年分の地層を連続して見ることが出来ます。ジオサイトの一つであり、平成19年に国の天然記念物に指定された「ノ目潟」には、平成23年の調査で、水底に日本最深となる約80m、過去3万年にわたる湖底堆積物(年縞)が確認されており、過去の地球環境を研究する上で注目されています。また、原油・ガスを産出する申川油田、女川層シエール層への採掘実証試験を行う福米沢油田など、有望な地下資源も存在します。

### 次世代エネルギーパーク

現在、再生可能エネルギーによる発電事業の推進に取り組んでおり、太陽光発電では、本年8月に

1990kw級が、11月に1250kw級が運転開始いたしました。男鹿の入口の両側をメガソーラーでお迎えしております。

また、風力発電では、秋田石油備蓄基地で1500kw級の風車1基が運転中、本年12月から2500kw級の風車1基が運転開始、また、2400kw級12基の風力発電所が、平成26年12月の運転開始を目指しています。

このことから、本年、資源エネルギー庁より「男鹿市次世代エネルギーパーク」の認定を受けました。

### 教育・子育て支援

本市は、平成22年度は国際教養



「海フェスタおが」の開催に併せて入港した帆船「日本丸」

大学と、平成23年度は秋田大学、秋田県立大学、ノースアジア大学、県教育委員会との連携協定を締結しております。秋田大学では、教育研究資源を発信し、地域活性化に取り組みため、本年9月30日に「男鹿なまはげ分校」を開設いたしました。また、県内の進学予備校と協定し、市内中学校の3年生を対象に、「土曜塾」として学習教室を開催しており、本年からは、県内初の取り組みとして、大容量の光通信を活用し、生徒からの質問も可能な双方向の学習教室を実施いたしました。さらに、子育て支援や農業振興の観点から、18歳未満の子どものいる世帯に、男鹿産米を「子育て応援米」として支給するほか、市で実施している住宅リフォーム助成事業に子育て世帯枠を設けて補助率を優遇するなど、子育て世帯の負担軽減を図っております。

### むすびに

本市では、美しい自然景観を生かした観光施設の整備に努めており、名物の「石焼料理」など、新鮮な海の幸を使った料理で皆さまを

お迎えしております。

本市には、市内の果樹園が「おもて梨」のネーミングで販売している北限の梨のほか、男鹿産の天然フグなど、まだ知られていない特産品もあります。

また、椿地区の能登山のツバキは、日本海側の「つばき自生北限地帯」として、大正11年に国の天然記念物に指定されており、平成27年春には、ツバキやサザンカを市町

村の花木に指定している自治体が一堂に集う「全国椿サミット」を開催いたします。

今後、本市にあるさまざまな資源を活用し、体験型・滞在型観光、教育・スポーツ合宿誘致などの推進による、交流人口の増を目指してまいります。

教育・観光・環境の各分野の連携により、市政の発展を図ってまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 240.80km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万1121人
- ◆ 世帯数 1万3318世帯

〔将来都市像〕 活力ある地場産業の構築と思いやりの心で創り上げる「教育・観光・環境が豊かな文化都市」

〔特産品〕 マダイ、寒ブリ、アマダイ、天然フグ、和なし、メロン、ハタハタ

〔観光〕 西海岸の奇岩怪石、寒風山の360度パノラマ、目潟火山群、男鹿水族館GAO、なまはげ館・男鹿真山伝承館、男鹿温泉郷

〔イベント〕 男鹿日本海花火、なまはげ柴灯まつり、日本海メロンマラソン、男鹿駅伝競走大会、秋田船方節全国大会



男鹿市長 渡部幸男

〔市町村合併〕平成17年3月22日に、旧男鹿市、旧若美町の合併により誕生



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 来て・観て・住んであったか、とちぎ

## 自然、歴史、文化が息づくまち

栃木市は、栃木県の南部に位置し、東京から鉄道でも車で約1時間の距離にあり、茨城、栃木、群馬、埼玉の4県の県境が接する稀有な地域であります。本市の西部から北部は山並みをなし、東部は関東平野が広がっています。市の中央部には太平山県立自然公園が、南部には平成24年7月にラムサール条約登録湿地となった渡良瀬遊水地があり、県南のシンボルの自然景観を有しています。江戸時代には「日光例幣使街道」沿いに宿場が置かれ、現在のまちの基礎が築かれました。さらには、渡良瀬川、思川、巴波川など多くの河川が市域を流れており、江戸時代後期から、これらの川を利用した舟運による物資の集積地として発展しました。

## 地域医療の再生に向けて

地域医療の再生については、現在、経営形態の違う市内の中核3病院が、限りある医療資源を有効に活用し、切れ目のない医療体制の構築を目指して統合再編を進めています。これは全国でもまれな

## 中心市街地の活性化と庁舎移転

現在、市内の中心部にあった百貨店の閉店に伴い、利用されていなかった商業施設を、市役所として再利用する市役所の庁舎建設工事を行っています。これは、中心市街地の活性化を大きな目的の一つとしており、平成26年2月完成予定の新庁舎は、1階の一部に新たに百貨店を誘致することにより、



観光資源としても貴重な蔵の街並み

周辺住民のニーズに応えるとともに、市が認定する「とちぎ小江戸ブランド」商品などを取りそろえ、観光客にも利便を図ります。

また、地元商店会などと協力して中心市街地を活性化し、にぎわいの創出や市民の皆さまの利便性の向上を目指します。

## にぎわいのあるまちに

平成22年3月に旧栃木市・大平町・藤岡町・都賀町が合併し、現在の栃木市が誕生しました。さらに平成23年には西方町と合併し、平成26年4月には岩舟町と合併します。以前よりも格段に規模の大



渡良瀬遊水地で行われた「渡良瀬バルーンレース」

きくなった自治体として、そのメリットを生かし、ふれあいバス(コミュニティバス)や蔵タク(デマンドタクシー)の運行など各種の新規事業に取り組んでいます。市民の一体感の醸成は大きな課題となっています。

その課題の解決のため、本年8月には「第1回栃木市民スポーツフェスティバル」を、11月にはラムサール条約登録湿地となった渡良瀬遊水地をスタートし、市内を縦断する「第1回栃木市ウォーキング大会」を開催しました。参加した市民の方々はもちろん、応援していただいた皆さんもほかの地域の方々と交流することで、栃木市民としての一体感を実感してもらえたのではないのでしょうか。

また、2年に1度開催される「とちぎ秋まつり」は、市内の小中学生が山車を曳き、蔵の街を巡行するなど、力を合わせて祭りを盛り上げてくれました。多くの観光客を迎え、栃木市民であることに誇りを感じてもらえたのではないのでしょうか。

今後も、市民の皆さまがこれらの行事に参加できる機会を増やし、市民としての一体感の醸成を図っていきたくと考えています。

## みんなが笑顔のあったか栃木市

平成24年には市の最高規範となる「栃木市自治基本条例」を制定し、また本年3月には、具体的なまちづくりの指針となる「栃木市総合計画」を策定しました。計画では10年後の目指すべき将来像を「自然、歴史、文化が息づく、みんなが笑顔のあったか栃木市」と定め、その実現のため

め施策を体系的に明らかにして、まちづくりの基盤を固めました。

今後この計画を着実に実行することにより、栃木市に住んでいる人はもちろん、栃木市に来て学ぶ人や働く人、観光で訪れる人たちが、心組み、安らぎを感じながら、生き生きと暮らし、さまざまに活動することのできる、自然に満ちた快適で居心地のよいまちづくりを進めていきます。

## プロフィール

- ◆ 面積 284.8 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 14万7149人
- ◆ 世帯数 5万4101世帯

- ◆ 〔将来都市像〕自然、歴史、文化が息づく、みんなが笑顔のあったか栃木市
- ◆ 〔まちの特徴〕東京から鉄道でも車で約1時間の距離にあり、4県の県境が接するほか、多くの河川が市域を流れる、豊かな水資源に恵まれた都市
- ◆ 〔特産品〕ぶどう、イチゴ、二条大麦、にら、芋焼酎、巨峰ワイン、とちお



栃木市長 鈴木俊美



とめジエラート

〔観光〕渡良瀬遊水地、太平山、蔵の街並み、つがの里、小倉堰、ぶどう狩り

〔イベント〕ヨシ焼き(3月)、とちぎ桜まつり(4月)、渡良瀬バルーンレース(4月)、つがの里花形祭(4月)、な(じ) Sound Stage OHIBA(8月)、TSUGA盆&つが花火大会(8月)、とちぎ秋祭り(11月)、と田舎にしかた祭り(11月)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「希望が見えるまち 誰もが住みたく なるまち掛川」の実現を目指して

はじめに

掛川市は、東京と大阪の中間、また静岡県の二大都市、静岡市と浜松市の間に位置し、東海道新幹線駅、東名や新東名のインターチェンジが接続するなど、交通アクセスに恵まれた都市であります。平成17年4月に1市2町が合併し、新掛川市の歩みが始まりました。人口は約12万人。海と山と街道がつながり自然豊かで、多くの歴史資産が残る文化の香り高いまちとして、「報徳の精神」と「生涯学習の理念」を柱に先人の英知とともに発展してまいりました。

### 今年「協働のまちづくり元年」

本年4月、「掛川市自治基本条例」が施行されました。自治基本条例では「情報共有」「参画」「協働」を基

本原則に、市民・議会・行政の3つの主体が連携してまちづくりを進めていくことが規定されております。

本市における「協働」とは、明治時代から地域に根付く二宮尊徳による「報徳」の精神と、昭和54年に全国に先駆けて行った「生涯学習都市宣言」が根底にあり、その理念に基づく「生涯学習まちづくり」が基礎となつていきます。従って本市にとつての「協働」は、決して新しいものではありません。以前より実践されてきたさまざまな取り組みに気付き、目を向けるとともに見直すことが、地域課題の解決に向けた新たな協働を生み出します。本市では、このことを進めるために、具体的なまちづくりの仕組みを整備し、市民自治の実現を推進しています。

### 世界農業遺産「静岡の茶草場農法」とお茶のまちづくり

本市の地場産業である「お茶」は、全国茶品評会の「深蒸し煎茶の部」で9年連続17回の最優秀産地賞を受賞するなど、品質も国内最高レベルにあります。

また、本年5月30日に石川県七尾市で開催されました「世界農業遺産(GIAHS)国際会議」において、日本では3番目となる世界農業遺産として、FAO(国際連合食糧農業機関)に掛川市を含む4市1町の「静岡の茶草場農法」が、熊本県の「阿蘇の草原の維持と持続的農業」、大分県の「国東半島宇佐の農林漁業循環システム」とともに認定されました。

当地域で伝承され、取り組まれて続けてきた茶草場農法は、より良

いお茶を生産するため、茶農家が茶園周辺の半自然草地、すなわち茶草場の草刈り取り管理することで、生物多様性が守られるという、生物多様性保全と持続的な自然と共生する農業生産活動の面で評価をいただきました。

当地域では、この認定を誇りに思うとともに、受け継いできたこの農法の価値を認識し、持続可能な農業生産活動と生物多様性保全への取り組みを進めるため、策定した「静岡の茶草場農法」GIAHSアクションプランに基づき、この農法への取り組みを維持・拡大するとともに、次世代へ継承するための施策として、本年9月に、農法実践者認定制度の運用を開始しました。この認定制度によって、茶草場農法実践者の生産したお茶に付加価値が付き、農法実践の努力が報われる一助となるように願っています。

一方、茶草場には多種多様な草党性植物が生育しています。中には現在ではなかなか見られなくなつてし

年ごろから公立病院間の役割分担を進めてきました。

本市では、少ない医療資源を生かす住民の生活を守るために、隣接する袋井市とともに両市の市立病院を統合し「中東遠総合医療センター」を本年5月1日に開設しました。新病院は中東遠地域の基幹病院としての役割を担い、救急医を5人配置し、脳梗塞や脳卒中、心筋梗塞などに24時間いつでも診断・診察が受けられる救急医療体制の充実・強化を図り、質の高い医療サービスを提供できるよう努めています。

一方、市立病院の閉院に伴う跡地8haには、県や民間の力を活用して多機能施設を集約化し、「健康医療日本一のまちづくり」の中核ゾーンとして「希望の丘」の整備を進めています。「希望の丘」は5ブロックに分かれ、県立特別支援学校や新病院の後方支援を行う療養型病院のほか、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、重症心身障害児(者)通所施設、急患センターなどが平成27年4月までにそれぞれ開設します。

さらに、市民の生活を総合的に支援する地域拠点として「地域健康医療支援センター・ふくしあ」の整備を進めています。「ふくしあ」に



世界農業遺産「静岡の茶草場」

まったような希少な草花もありますが、当地域では茶草場農法のおかげで、ごく当たり前のように芽を出し、花を咲かせ、私たちを楽しませてくれます。この茶草場を草花の宝庫として位置付け、四季折々に市民が訪れ、学べる場となるよう工夫し、体験、学習、交流の場として活用していければと考えているところです。

### 健康医療日本一のまちづくり (地域医療連携の体制づくり)

本市では市民の健康を守るため、また、多くの住民の願いでもある住み慣れた地域で安心して最期まで暮らせるように、1つの医療機関ですべての治療を行うのではなく、近隣の病院がそれぞれ役割分担をする「地域完結型」の地域医療連携の体制整備を進めています。

本市がある、ここ中東遠地域は全国平均と比べて医師や看護師が少ない地域であったため、平成21

は、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、社会福祉協議会並びに行政職員をワンフロアに配置し、在宅医療支援、在宅介護支援、生活支援を柱に、医療・保健・福祉・介護の在宅支援を多職種連携により取り組んでいます。

### むすびに

私は、2期目の市政運営に本年

4月より携わることになりました。これからの4年間は、「健康医療・環境・市民活動」の3つの日本一の実現のため、限られた財源の中で、市民の安全・安心を第一に、市民との「協働」を大切にした新しい公共によるまちづくりと防災に強いまちづくりを推進し、「希望が見えるまち、誰もが住みたくなるまち」の実現を目指して取り組んでいます。

### プロフィール

- ◆ 面積 265・63 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 11万8188人
- ◆ 世帯数 4万1516世帯

〔将来都市像〕元気で活力に満ち、希望とぬくもりに溢れ、誰もが住みたくなるまち

〔まちの特徴〕日本の、東海道の、静岡県の真ん中に位置し、東海道新幹線、東名、新東名が横断する、自然・歴史・文化がほどよく整い、農・工・商サービスがバランスよく調和したまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、旧掛川市、大東町、大須賀町が対等合併



掛川市長 松井三郎



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# みんなできつくる元気な宇土市!

## はじめに

宇土市は、熊本県のほぼ中央部、有明海と八代海を二分する宇土半島の基部に位置し、半島のほぼ北半分を占めています。また、政令指定都市の熊本市に隣接し、人口107万人を有する熊本都市圏を構成しています。

交通網については、九州を南北に縦断する国道3号と宇土半島を東西に延びる国道57号の分岐点であり、またJR鹿児島本線とJR三角線の分岐点であるなど、交通の要衝となっています。



小西行長公銅像

観光資源は、日本の渚百選の「御興来海岸」や日本の名水100選の「轟水源」などがあります。

## 宇土城主「小西行長公」でまちづくり

本市は、豊臣秀吉公の時代にキリシタン大名小西行長公が居城を構え、統治したまちです。領主であったのはわずか12年ほどですが、宇土の礎を築いたのが行長公であります。

しかし関ヶ原で敗軍の将となり、さらに後に禁教とされたキリシタン信者であったこともあり、数百年にわたり悪評が語り継がれてきました。しかしながら近年の歴史研究により、それらの悪評のほとんどが後世の作り話であることが分かりました。そのため本市では、行長公のシンポジウムや歴史検証

会をたびたび開催し、民放でのドラマ「海の司令官・小西行長」の制作・放映なども行いました。最近の検証会には、関西方面など遠方からの参加者も増え、毎回会場が満員になるほどになりました。また「うと教育の日」には、地元小学生に対して私自身が行長公の講話をしています。小学生が教科書には載っていない地元の歴史を身近に感じ、興味を持ってくれることを大変うれしく思っています。

人としての小西行長公は信仰が篤く、忠義を重んじる武将であったなど、行長公の認知度アップを図るとともに、ゆるキャラ「うとん行長しゃん」なども活用して本市のPRも行っています。古くから栄えた宇土市は歴史のまちであり、歴史研究は宝探しとも言えます。これからも埋もれた宝を探しながら



宇土市のゆるキャラ「うとん行長しゃん」

ら、まちづくりの糧にできればと思っています。

## 職員が手弁当でまちおこし

「最近、熊本県内で情報発信力があるのは宇土市ですよ」と言われました。一つはゆるキャラの活躍です。熊本県といえば「くまモン」が全国的にも大人気ですが、本市の「うとん行長しゃん」も平成24年の「ゆるキャラグランプリ」では県内1位、全国55位に選ばれました。この「うとん行長しゃん」は宇土領主の小西行長公をモデルにしたキャラクターで平成23年に公募で決まりましたが、当初は着ぐるみを作製する予算は市にはありませんでした。そこで、職員有志15人



日本の渚百選「御興来海岸」

が、キャラクターグッズを製作販売して、その売上金約50万円を基に着ぐるみを製作しました。また、休日には職員が手弁当で着ぐるみを着て、イベントに参加しました。ゆるキャラグランプリに応募した際は知名度がなかったため、5万枚のチラシを作成し、市民に配って投票を呼び掛けました。休日返上でゆるキャラとともに東奔西走する職員たちの汗の結晶が、県内1位の栄誉につながり、最近では近隣自治体イベントでの出演機会も多く、大企業のCMに出演するまでになっています。

ほかにも、地元テレビ局主催の「ふるさとCMコンテスト」で職員

が手弁当で製作したCMが3年連続入賞し、平成24年は金賞を受賞しました。

このほかにも地域の消防団や体育協会などの地域活動に職員が積極的に参加しています。このことで役所を外側から見ることができ、市民目線で物事をとらえることができるようになります。何より職員の頑張りが市民にも伝わりますので、市民との信頼関係にもつながると思っています。

## みんなで実現するまちづくり

市民感覚を最大限に反映するために、毎月2回ペースの「市民ふれあい座談会(市長と話そう)」や「昼食懇談会(市長と気軽にランチトーク)」を開催し、いろいろな団体や世代、また地域の皆さんと意見交換を行っています。直接対話する中で、市民の皆さんから市政への提案などをいただき、可能なものについては市政に反映させたいと考えていますし、市民の率直な思いをくみ取することは非常に大事なことだと考えています。

また、地域コミュニティ団体が主体的に行うまちづくり活動に対

する「まちづくり活動助成金」制度を設けました。市民自らが地域のイベントを企画・開催し、身近な公園などの管理や整備について自ら考え、行動してもらうことが重要だという思いからです。

これからの宇土市の持つ魅力ある資源を広くPRし、人口が増加する元気なまち、そして、市民の声を傾聴し、市民感覚を取り入れたまちづくりを行ってまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 74・20km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万8085人
- ◆ 世帯数 1万4458世帯

〔将来都市像〕みんなできつくる元気な宇土市！

〔まちの特徴〕熊本県のほぼ中央に位置する自然と歴史、そして文化が共存するまち

〔特産品〕海苔、アサリ、甲イカ、トマト、メロン、きゅうり、デコポン、網田ネーブル、みかん、葉たばこ、餅、張り子、手打ち刃物、おこしきぎ



宇土市長 元松茂樹



〔観光〕御興来海岸、轟水源、大太鼓収蔵館、船場橋界隈、網田焼の里資料館、立岡自然公園、中世宇土城跡、宇土城跡(中世・近世)、長部田海床路、如来寺(仏像)

〔イベント〕粟嶋神社春季大祭、うと花園桜まつり、網田マリンフェスタ、宇土大太鼓フェスティバル、うと地藏まつり、西岡神社大祭、山王神社大祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。